

第1学年A組 図画工作科学習指導案

授業者 佐々木 恵
研究協力者 長瀬 達也
教材分析協力者 石井 宏一

1 題材名 ぐう、ちょき、ぱあで、おりがみへーんしん

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

就学前には紙箱や空き容器を使った工作や折り紙、お絵かき、粘土遊び、砂遊びなど、自分のつくりたいものを自由につくるような活動を経験している子どもが多い。しかしその経験の内容には個人差が見られる。

入学後は二つの題材を経験している。造形遊びの題材「ねんどとなかよし」では、粘土で自分の好きなものを黙々とつくったり、できた形を何かに見立てて楽しんだりする様子が見られた。また、自分の好きなものをクレヨンで描く「好きなものなあに」の学習では、描きたいものを次々に思い付いてどんどん描いていく子どもが多かったが、描きたいことが思い付かない子どもや、一つ描くのに時間がかかる子どももおり、取り組み方は様々だった。描いた画用紙を一人分ずつ作品としてつなげて掲示すると、自分の作品で廊下を飾っている様子を見て喜ぶ子どもの姿が見られた。どちらの題材でも、周りの人、材料、環境などに体全体で関わり、思い付いた表し方などを自分なりに楽しみながら活動する子どもが多かった。

用具を扱う技能も個人差が大きい。生活科の学習ではさみを使った際には、思い通りの場所を切ることができない子どもや、切りすぎてしまう子どももいた。

(2) 題材について

本題材は、**折り紙の折り方や切り方、並べ方やつなげ方を工夫することを通して、形や色、表し方を工夫する力**を付けることを目指す。

折り紙を折って切ったり、切った後に開いて新しい形や模様をつくり出したりすることは、どんなものがつくり出せるかというワクワク感をもって楽しみながら活動することができると考える。紙を折って切る仕組みを生かして、できる形を想像しながら、紙を折る形や切る場所などを考えて表したり、偶然できた形を何かに見立てたりする見方・考え方を働かせることができるであろう。つくった飾りの並べ方やつなげ方を考えることで、新たにできた模様やその色、〇〇のように見えるなどの造形的な要素を見いだし、表し方のイメージを広げ、どこかに飾りたくなるような作品をつくり出していくことを期待したい。

また、自分の思いやイメージに合わせた折り方や切り方、並べ方や重ね方を工夫することを通して、はさみやのりなどの用具を適切に使い、知識・技能を高めていくこともできると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

導入では、紙を折って切り開くことでできる形の面白さに気付くことができるように、教師が実際に紙を折って切り開き、できた形や切り落とした部分の形を提示する。どんな折り方や切り方ができるか、子どもに問いかけながら演示することで、子どもの意欲を高め、いろいろな表し方に気付くことができるようにする。切ってできた形も、切り落とした部分の形も、組み合わせることで作品に生かせることを伝え、表し方を考える視点としたい。

はさみの適切な扱い方を知り、紙を思いのままに切って表したい形を表すことができるように、いろいろな折り方や切り方を自由に試す場を設ける。つくりながら表したいことを思い付くことができるように、子どもとの対話を通して様々な表し方を認めていく。

飾りをつくる活動では、前時の活動でみんなが試した折り方や切り方を確かめる場を設け、折り方や切り方の違いで様々な模様ができること（学びのものさし）に気付く、本時で自分が取り組んでみたい折り方や切り方を考えることができるようにする。表したいことに合った折り紙を選び、発想を広げることができるように、ヒントコーナーを設ける。また、できた形を一時的に飾ることができる場を設け、友達の作品や製作途中の様子を見ることができるようにする。それによって、さらに表し方のイメージを広げることができるようにする。

作品を鑑賞する際には、自分の作品づくりで気付いた形や色、友達の作品から気付いた形や色が「〇〇に見える」「ここが面白い、楽しい」ということに着目する鑑賞の視点を示す。できた形や色をつなげたり重ねたりしたときの面白さを味わい、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 紙の折り方や切り方をさまざまに試したり、それらを並べたりつなげたりすることを通して、いろいろな形や模様を見付けながら工夫して表すことができる。

〈e-25,26,27〉

(2) 紙を折ったり切ったりしてできる形に気付き、どのように表すかを考えたり、自分や友達の作品の面白さやよさを感じ取ったりすることができる。〈d-20〉〈f-34,35〉

(3) 紙の折り方や切り方を変えることで、いろいろな形や模様ができることに興味をもち、楽しく取り組もうとする。〈a-1〉

4 題材の構想 (総時数 5 時間)

ねんどとなかよし (造形遊び), すきなもののいっぱい (絵)
 ・手や体全体の感覚を働かせながら, 活動を工夫してつくる
 ・好きな形や色を選び, どのように表すかを考える

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との 関連)
1 2	<p>(1) 折り紙を折って切る飾りの作り方を知り, できた形の面白さについて確かめ合う。 ・紙を折って切って開いたら, 模様ができるね。</p> <p>(2) いろいろな折り方や切り方で飾りをつくる。 ・三角に折って切ってみよう。 ・折った所を切るとあなが開くよ。 ・四角折りと三角折りで, 模様のでき方が違うね。</p>	<p>・題材を通して働かせる「見方・考え方」を確かめることができるところに, 紙を折って開くことでできる形の面白さについて話し合う場を設定する。</p> <p>・はさみの正しい扱い方を知り, 紙を思いのままに切って表したい形を表すことができるように, いろいろな折り方や切り方を自由に試す場を設ける。 ・つくりながら表したいことを思い付くことができるように, 子どもとの対話を通して様々な表し方を認める。</p>	<p>・紙の折り方や切り方をいろいろ変えることで, いろいろな形や模様ができることに興味をもち, 楽しく取り組もうとする。 (a-1)</p> <p>・はさみを正しく扱い, 紙の折り方や切り方をさまざまに試している。 (e-25)</p>
<p>学習課題 折り紙の折り方や切り方を考えて, 世界に一つだけの飾りをつくろう。</p>			
3 本時	<p>(3) 折り紙の折り方や切り方を考えてつくる。 ・1回だけ折って切ったら, ハートの形ができたよ。 ・たくさん折れば面白い形ができると思う。 ・違う色の折り紙を使って, 同じ折り方でやってみよう。 ・同じ折り方でも切る場所を変えたら違う模様ができるよ。</p>	<p>・折り方や切り方の違いで様々な模様ができることに気づき, やってみようという折り方や切り方を考えることができるように, 前時で試した折り方や切り方を確かめる場を設ける。 ・表したいことに合った折り紙を選び, 発想を広げることができるよう, ヒントコーナーを設ける。 ・友達の作品や製作途中の様子を見て, さらに表し方のイメージを広げることができるよう, つくった形を一時的に飾る場を設定する。</p>	<p>・折り方や切り方の違いで様々な模様ができることに着目し, いろいろな形や模様を見付けながら表している。 (e-26, 27)</p>
4	<p>(4) 切った形の並べ方やつなぎ方を考え, 表し方を工夫して表す。 ・切った穴から重ねた色が見えるよ。 ・並べるとお話ができそう。 ・切れたところもつなげたら, 面白くなった。</p>	<p>・つくった飾りを並べたりつなげたりしたときの形や色の面白さに気づくことができるように, 並べたりつなげたりする表し方について話し合う場を設ける。 ・できる形や色の面白さやよさを共有することができるように, 並べたりつなげたりしている子どもの作品を紹介する。</p>	<p>・折り紙を並べたりつなげたりした形や色に気づき, 並べ方やつなぎ方を工夫し, 表し方を考えている。 (d-20)</p>
5	<p>(5) 作品を鑑賞し, 作品の面白さやよさについて話し合う。 ・Aさんの飾りは笑っているみたいに見えるね。 ・二つの色の飾りがつながって, 新しい模様ができている面白いな。</p>	<p>・作品の面白さを味わうことができるように, できた形や色が「〇〇に見える」「ここが面白い, 楽しい」という鑑賞の視点を示す。</p>	<p>・自分や友達の作品の面白さやよさを感じ取ることができる。 (f-34, 35)</p>

◎本題材で育む主な資質・能力
 折り紙を折ったり切ったり並べたりしてできた形や色に気づき, その面白さを味わい, 形や色, 表し方を工夫する。 (d-20)

↓

ひかりのくにのなかまたち (工作)
 ・材料の特徴を生かした形や色の面白さに気づき, 表したいことを基に工夫して表す

5 本時の実際 (3 / 5)

- (1) ねらい 折り紙の折り方や切り方に着目し、できた形の面白さを味わいながら折ったり切ったりする活動を通して、いろいろな形や模様を見つけて表すことができる。
(e-26, 27)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価
7分	<p>① 本時の活動を確認する。</p>	<p>○折り方や切り方の違いで様々な模様ができること（学びのものさし）に気づき、やってみたい折り方や切り方を考えることができるように、前時で試した折り方や切り方を確認する場を設ける。</p>
<p>学習課題 折り紙の折り方や切り方を考えて、世界に一つだけの飾りをつくろう。</p>		
33分	<p>② 折り紙の折り方や切り方を工夫して、折り紙の飾りをつくる。 <予想される子どもの反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回だけ折って切ったら、ハートのような形ができたよ。 ・ たくさん折れば面白い形ができると思ったけど、切りにくいな。 ・ 折り紙を開いたらバラバラになってしまったけど、どうにかできるかな。 ・ 違う色の折り紙を使って、同じ折り方でやってみよう。 ・ 切った穴から向こう側が見えて面白いね。 ・ 同じ折り方でも切る場所を変えたら違う模様ができたよ。 ・ 2回三角折りをして端のところを切ったら、雪の結晶みたいになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表したいことに合った折り紙を選び、発想を広げることができように、ヒントコーナーを設ける。 ・ 友達の作品や製作途中の様子を見て、さらに表し方のイメージを広げることができるように、つくった形を一時的に飾る場を設定する。 <p>○つくった形の面白さやよさを共有し、折り方や切り方の違いで様々な模様ができること（学びのものさし）をさらに活用することができるように、子どもの作品を取り上げて紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>折り方や切り方の違いで様々な模様ができることに着目し、いろいろな形や模様を見付けながら表している。 (e-26, 27) (活動・作品)</p> </div>
5分	<p>③ 本時の活動の振り返りをし、次時への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 折り紙を横長に折って切ったら、手をつないでいるみたいで面白かったよ。 ・ 折る回数を増やしたら、きれいな模様ができたんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんな折り方や切り方をしたらどんな飾りをつくることができたかの考え、折り方や切り方の違いを確認することができるように、自分の作品づくりや友達の作品から見つけた発見について紹介する場を設ける。